

視察用

様式(細則 5-2)

平成 27年 11月 4日

浜田市議会議長  
原田 義則 様

議員名 佐々木 豊治



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 27年 10月 25日 ～ 10月 27日

2. 視察又は訪問先

- 愛知県北設楽郡豊根村 高齢者買い物支援「お使いポインタ便」
- 石川県金沢市 日本版CCRC 「シェア金沢」

3. 調査経費

56,753 円

- ・旅費運賃 (JR代) 39,610 円
- ・宿泊代 2泊 (浜松・金沢) 10,800 円
- ・浜田～広島往復ガソリン代・高速代・駐車料 2,331 円
- ・浜松～豊根村往復ガソリン代・高速代・借上料 2,486 円
- ・金沢駅～シェア金沢 タクシー代 1,526 円

4. 調査研究活動の概要

別紙



### 【愛知県豊根村の概要】

豊根村は、愛知県・長野県・静岡県<sup>山</sup>の県境に位置し、県内最高峰の茶臼山をはじめ、1000メートル級の山々を有し、冬のスキーや春の芝桜などオールシーズンリゾートとして、年間60万人の観光客が訪れる。

面積は156km<sup>2</sup>で、人口は1200人、530世帯、高齢化率は46%で、高齢者世帯が252世帯を占める。

村内には食料品店など商店が8店舗あるが、人口減少にともない、店舗数は20年間で半減の状況にある。

期間産業は林業で、93%が山である。

基

### 【担当者の説明から】

・村にはタクシーがなく、シルバーの方に登録してもらい、平成15年から予約型のマイカー制度を行っており、買い物弱者111人が登録している。(全国初の取組)

・人口減少にともない商店の売り上げも20年間で半減。

・買い物弱者支援、地域商店の維持・活性化、高齢者の生活支援として考えた結果、郵便局からの地域に貢献したいとの希望もあり、26年度から検討を重ね、今度7月から「豊根村買い物支援サービス おつかいポインタ便事業」を開始した。

実施者は豊根村で、事務は豊根村商工会へ委託。

利用対象者は豊根村住民だが、郵便局の管轄内としている。

5店舗が登録している。

利用者は事前に登録し、前日に店舗へ連絡し、店舗はその日の午後4時までに郵便局に連絡。翌日、郵便局が通常郵便物の集配に合わせ商品を配達する。

商品代金は月末締め<sup>の</sup>翌月15日に郵便局の口座から引落としとなる。

・配達用の折りたたみ式専用ケースがあり、送料・手数料は無料となっているが、市が郵便局へ支援を行っている。

・特にカタログなどは作成していない。

・生協などの事業もあるので、この事業を特に進めることまでしてはいないが、保険的な意味で取組んでいる。

・登録者は35名。これまで19件の利用がある。

・なるべく配達できないものがないようにしている。

役所での説明を伺ったあと、配達業務を請け負っている郵便局での局長さ

んのお話しや、地元の店舗にも伺い、少し話を聞くことができました。

**【感想】**

買い物弱者支援として自治体と郵便局が連携した全国初の取組とされ、多くのマスコミも取り上げた経緯もあります。

これまで、浜田市においての移動販売事業の必要性を訴えてきましたが、過疎化が高い地域においては、郵便局と連携したサービスも検討していく必要があると感じました。

### 【シェア金沢（石川県金沢市）の概要】

社会福祉法人「佛子園」（石川県白山市）が運営する、子どもから大学生、高齢者まで、世代や障害の有り無しを超えて、いろんな人がつながり、地域社会づくりに参加する街とされている。

総面積 11,000 坪の敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅 3 2 戸、アトリア付き学生住宅 2 戸、学生住宅 6 戸、児童入所施設で 4 つのユニットの整備をはじめ、本館には天然温泉やレストラン、ギャラリーなどが地域住民に開放されている。

また、アルパカ牧場、ドッグラン、農園、料理教室、ライブハウス、全天候型グラウンド他、多くの支援施設が整備されている。

敷地内には北鉄バスの停留所も設置されている。

### 【施設長 奥村俊哉さんのお話しから】

- ・ 1 日 1 5 0 0 人が訪れる。
- ・ この跡地は元々、国立病院で、シェアはエリア型。働く場所、生活する場所がエリアの ~~な~~ なかに整っている。
- ・ 加賀平野の 5 5 世帯の野田町の古いお寺「西園寺」を手作りで整備したことが、シェア金沢発想のミッションになっている。温泉を掘り、本堂に居酒屋をつくり、高齢者障害者施設機能も設置した。
- ・ 白山市にグループホームを作ろうとしたら、大きな反対運動が起きた。くやしかった。シェア設立の基となった。
- ・ 夜間徘徊の高齢者と重度精神障害の若者が関わったらどつ<sup>と</sup>も良くなった。衝撃的だった。やりすぎる福祉はだめ。やりすぎない福祉をどう取り込むか。
- ・ 野田町は現在 6 9 世帯に増えてきた。若者が出て行かなくなった。「西園寺」の効果で地域のつながりが強くなり、住みやすいまちとなったのではないか。
- ・ 地域住民と施設の子どもたちが関わりやすいように、障害者を特別視しないようにと、施設内の歩道を狭くしている。
- ・ この施設は「CCRC」とは少し違って、高齢者に対する福祉サービスは 2 つだけで、障害者が生活する場所、相談する場所、未就学児や就学児童、その家族の相談事業、A 型 B 型の就労支援など障害を持った人たちのサービスは幅広く展開している。障害者の支えてとして機能していきたい。
- ・ 街の店舗の入居条件は貢献活動が唯一の条件となっている。

- ・地域活動に参加する人が多い地域は要介護率が低い。体操など肉体的な介護予防よりも、精神的な介護予防の方が大事。
- ・高齢者が住みやすい要素に8つある。福祉・介護・医療などの他に交通や雇用など、地域の力を借りなくてはできないこともある。
- ・高齢者住宅の入居者は半分が県外からの入居。
- ・地域の人が勝手にやって来て、勝手に使える街にしている。
- ・金沢大学とも連携している。

### 【感想】

地方創生の事例として、安倍総理も視察をされ、「日本版 CCRC」の取組として、全国から多くの視察が訪れる場所となっています。

当日も、我々の他に数団体が訪れ、次々に対応されていました。

元々、障害者施設の法人ではあるが、若者や高齢者、それに多くの地域住民を巻き込んだ取組は、大変ボリュームがあり、一つひとつがとても深い取組に感じました。昨年施設に訪れた人は20万人を超えるとのことでした。

最近では、輪島の漆を取り入れた観光客の誘致にも法人の活動として取組んでおられ、法人のさらなる展望などを感じました。